

妙法華寺便り

令和6年8月号



和尚さんのよろず話

お盆回りの折、あるお檀家の方から、「お施餓鬼の時に旗が4本あるけど、何て書いてあるの？意味は何でしょう？」と尋ねられました。

その旗とは、9月20日の施餓鬼法要・秋の彼岸会で御宝前中央にある施餓鬼棚の四隅に、龍の口から垂れ下がっている四方の旗の事です。そこには、次のように書かれています。

「によいかんろしゃ如以甘露灑 じょねつとくしょうりょう除熱得清涼 によじゅうけこくらい如從飢国来 こつぐだいおうぜん忽遇大王膳」

これは妙法蓮華經授記品第六のお経の一節です。

お盆の回向やお施餓鬼の回向の際にも読まれる大切な言葉で、仏教の教えが人々の苦しみや煩惱を取り除き、心の平安をもたらすことを示しています。具体的には、次のような意味となります。



「如以甘露灑」は、甘露（雨の中でも仏様の世界から降り注ぐ特別な雨）のような教えが、心の熱や苦しみの煩惱を取り除く。

「除熱得清涼」は、その教えによって、心が清涼感を得る（わだかまりの心が洗われる）。

「如從飢国来」は、飢えた国（迷いの世界）から来た者が、突然豊かな食事に出会うような驚きと喜び（悟りの境地）を表現しており。

「忽遇大王膳」は、大王の膳に出会うことで、予期せぬ幸運や恩恵を受けることを示しています。

すなわち、「お釈迦様・仏教に出会えた喜びは計り知れない」という事になります。

仏教の教えがどれほど貴重であり、心に平安をもたらす力があるかを強調しています。

この施餓鬼法要でたくさんのお上人のお経を受け、更に甘露に擬したお水を楡の葉で灑水した塔婆の霊位は、この功德を受けられるのです。それは功德主とその家族の方がにも甘露の雨のように仏様の威光が注がれることとなります。

儀式法要の中で何となく所作をしているように見えますが、一つ一つが法華經の世界を擬しているのです。

◇ 行事報告 ◇

7月18日（木）摩利支天月例祭



連日の猛暑日で、檀信徒の皆様にはお見舞い申しあげます。暑い日の中での開催でしたが、クーラーを使用しての開催となりました。改めて、中島商会の中島勉会長と寄付を頂いた檀信徒各位に感謝申しあげます。

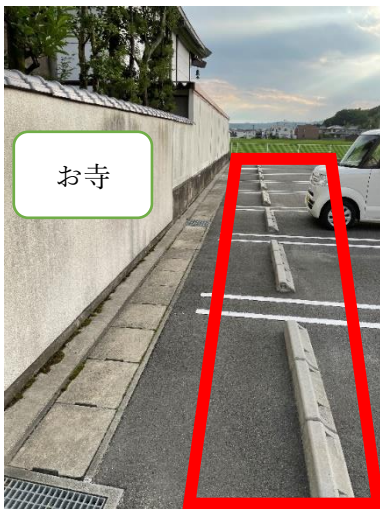
◇ 行事案内 ◇

摩利支天月例祭

9月18日（水）・10月18日（金）午前10時より執行いたします。

施餓鬼会

9月20日（金）午後1時より執り行います。



当日のみ、お寺の北側に隣接する「ももレディースクリニック」の駐車場の一番南側（お寺側）の一列が使用できます。境内の駐車場と合わせてご利用下さい。駐車に際しては、事故等がないよう十分注意してください。

また、施餓鬼供養の申し込みが未だの方は早めにお申し込みください。

なお、塔婆を申込された方で、諸事情により当日の参加を見合わせられる方は、その旨を予めお寺に連絡頂けると助かります。翌日9月21日（土）は、終日お寺に居りますので、お越し下さい。お塔婆をお渡しします。

それ以降に来られる方は、ご連絡のうえお越しいただきますようお願いいたします。お布施は受け取りに来られた時をお願いします。

◇ 近況 ◇

今年も8月13日から15日まで、本了院霊園で読経の後、本堂にて檀信徒の方々のご先祖様と共に、無縁仏の方々にもお盆のお経を唱え、迎え火、送り火を焚きました。本年もお盆の行事を無事終える事ができました。ありがとうございました。

合 掌

